（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぐりーん菅原支店			
○保護者評価実施期間	2026年　9月　1日	～	2026年　9月　30日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	2名	（回答者数）	2名
○従業者評価実施期間	2026年　9月　1日	～	2026年　9月　30日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	10名	（回答者数）	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　10月　19日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プリント等、成果が目に見えやすい課題に取り組むことで、保護者に支援の内容を説明しやすく、理解も得られやすくなっている。送迎時の会話やモニタリング、連絡帳を通じて、支援の専門性を伝えられている。	一人ひとりの能力や特性に応じた支援・プログラムを実施している。	保護者との交流や職員間の情報交換を増やし、気付きや考えを共有していく。
2	LINEや電話、送迎時など、職員と保護者が関わる機会が多く、保護者の安心感や支援の充実につながっている。	こどもが好きな遊びなどに集中できるようサポートし、事業所で快適に過ごせるよう配慮している。	遊びの様子や保護者からのお話など、さまざまな面からこどもへの理解を深め、より良い支援や遊びにつなげていく。
3	ワンフロアの構造で見通しが良く、こどもの様子に目が行き届きやすい。	こどもの動きを見渡せる位置に職員が立ち、互いに声を掛け合いながら見守っている。	日々の清掃などを通じて清潔な環境を保ち、さらに快適に過ごせるよう配慮する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	聴覚過敏のあるこどもへの配慮が十分ではない。	ワンフロアのため見通しが良い一方で、落ち着いて過ごせる空間や一人になれる空間を確保しにくい。	新たに壁を設けて増やした個別支援ルームを活用するとともに、パーテーションやイヤーマフも活用する。
2	保護者の要望が強い場合や、難しい支援が求められる場合に、こども本人の権利や利益に十分沿えていない面がある。	こどもだけでなく保護者も支援を必要とする主体として寄り添う必要がある。また、職員の年齢層が幅広く専門性もさまざまなため、支援を統一しにくい面がある。	保護者の負担軽減にも配慮しながら、こどもの将来を見据えた最善の支援ができるよう心がける。職員間の意見交換の機会を増やし、それぞれの専門性を生かしてより良い支援につなげる。
3	保護者が参加できる説明会の案内や、防災設備・訓練などについての保護者への周知が不足している。	説明会などの連絡の頻度が少ない、または実施していないものがある。防災訓練などは実施していても、送迎担当の職員が立ち会っていないことがあり、保護者に伝えられないことが多かった。	保護者に周知すべき事項がある場合は、送迎の前に職員間で共有しておく。また、説明会などの案内がある際は、今後確実にお伝えしていく。

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ぐりーん菅原支店

公表日 2026年　10月　30日

利用児童数 2名　　回収数 2名

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	2					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2				生き物がいるとこどもにとって魅力的だと思う。	生き物の飼育について、こどもの安全や衛生面もふまえて検討していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1			1		保育所・幼稚園などとの交流や、地域のこどもと活動する機会づくりを検討していきます。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	1				面談で家庭での関わり方のご相談をお受けしています。HPの「おうちでできるペアトレ練習」や毎月の保護者向けコラムを、LINEでご案内します。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	2					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		1		1		保護者会やきょうだい向けイベントなど、交流の機会づくりを検討していきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2					

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	1	1				ホームページやSNSでの発信を続け、自己評価の結果も公表してお知らせします。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1	1				各種マニュアルや訓練の内容を、保護者の皆さまにお知らせしていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。		1		1		避難訓練などの実施状況を、保護者の皆さまにお知らせしていきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1	1				安全計画の内容を保護者の皆さまにお知らせし、安全に配慮した支援を続けます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	1	1				こどもが安心して通えるよう、一人ひとりに合わせた関わりを工夫していきます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	1	1				こどもが楽しみに通えるよう、好きな遊びや活動を取り入れていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	2					

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	ぐりーん菅原支店

公表日 2026年　10月　30日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	整理整頓を心がけ、活動に必要なスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2		職員が不足していると感じる日がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		学習スペースを分け、取り組みやすい環境にしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	2		トイレと洗面所の位置が近い。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	2		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		第三者評価は未実施のため、今後の受審を検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	1		外部の研修やワークショップに参加する機会を増やしていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	2		こども本人の利益や思いを、より丁寧にくみ取る必要がある。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1		活動プログラムの立案を、チームで行う機会が十分でない。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1		活動プログラムが固定化しないよう、内容を見直す機会を設ける。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	1		集団活動の機会がやや少ない。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		モニタリングの結果をもとに、計画を見直している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		こども一人ひとりの理解をもとに、関係機関に情報を伝えている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	4		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		モニタリングの面談で、発達の状況や課題を共有している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		モニタリングの面談で説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		モニタリングの面談で、こどもや家族の意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		モニタリングの面談で計画を示しながら説明し、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	4		保護者会やきょうだい同士の交流の機会が少ない。今後、開催を検討する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	1		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		8	保護者から聞き取ったアレルギーの情報を、職員間で共有している。	現在は保護者の聞き取りで対応している。今後、医師の指示書の提出をお願いする運用を検討する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	1		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		ヒヤリハットを職員間で共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9			